旅行安全の祈祷（陸路）

輔　君や、祝讃せよ。
司　我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
誦　アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。
天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の霊を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。（三次）
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救い給え。
蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
司　アミン。
誦　主憐めよ（三次）。
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
来たれ、我等の王神に叩拝せん。
来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。
来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第百四十二聖詠

主よ、我が祈を聆き、爾の真実に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聴き給え。爾の僕と訟を為す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が霊を逐い、我が生命を地に蹂り、我を久しく死せし者の如く暗に居らしむ、我が霊は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠しきが如し。我古の日を想い、凡そ爾の行いしことを考え、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向い、我が霊は渇ける地の如く爾を慕う。主よ、速に我に聴き給え、我が霊は衰えたり、爾の顔を我に隠す母れ、然らずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聴かしめ給え、我爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給え、我が霊を爾に挙ぐればなり。主よ、我を我が敵より救い給え、我爾に趨り附く。我に爾の旨を行うを教え給え、爾は我の神なればなり。願わくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依りて我を生かし給え、爾の義に依りて我が霊を苦難より引き出し給え、爾の憐を以て我が敵を滅ぼし、凡そ我が霊を攻むる者を夷げ給え、我は爾の僕なればなり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光栄は爾に帰す。（三次）

大聯祷

輔　我等安和にして主に祈らん。

詠　主憐めよ。　（以下毎次同様）

輔　上より降る安和と我等が霊の救の為に主に祈らん。

輔　全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。

輔　此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祈らん。

輔　教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祈らん。

輔　我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。
輔　此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祈らん。
輔　気候順和、五穀豊穣、天下泰平の為に主に祈らん。
輔　航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、虜となりし者、及び彼等の救の為に主に祈らん。
輔　爾の僕（婢）〔某〕を憐み、彼（等）に凡その自由と自由ならざる諸罪を赦して、彼（等）の旅行を祝福するが為に主に祈らん。
輔　彼（等）に同行者及び教導師として平安の神使、彼等を守り、禦ぎ、庇い、凡の禍より無難に守護する者を遣わすが為に主に祈らん。
輔　彼（等）を覆いて、凡の敵の悪謀と迫害とに悩まさるる事なく守り、無事を以て往復せしむるが為に主に祈らん。
輔　彼（等）に罪なき平安の旅行、及び壮健を以て凡の敬虔を守り、譽を得て無事に帰らしむるが為に主に祈らん。
輔　彼（等）が凡の見ゆると見えざる諸敵、及び悪人の残害に悩まされる事なく、傷なわれる事なく、護らるるが為に主に祈らん。

輔　彼（等）の善き企に降福し、爾の恩寵を以て之を安全に護り、霊と体の利益と為さんが為に主に祈らん。
輔　神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ。
輔　至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん
詠　主爾に。
司　蓋凡そ光栄尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
詠　アミン。

主は神なり

輔　主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。
詠　主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。（三次）
輔　（句）主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐みは世々に在ればなり。
　　（句）彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

（句）我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。
（句）工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

トロパリ（第四調）

途と真実たるハリストス独人を愛するの主や、生神女の祈祷に因りて、昔トワィヤに於けるが如く、今も爾の僕（婢）〔某〕に同行者として爾が守護する神使を遣わして、其光栄の為に、彼等を凡の悪に悩まさるるなく、無難に守らしめ給え。
光栄は父と子と聖神に帰す、
ルカ及びクレオパをエムマウスまで同行せし救世主や、今も旅行せんと欲する爾の僕（婢）〔某〕に同行して、彼（等）を凡の禍より免れしめ給え、蓋爾は人を愛する主なるにより、欲する所能くせざるなし。
今も何時も世世に、アミン。
ハリスティアニン等の辱を得ざる轉達、造物主の前に変わらざる仲保や、罪なる

者の祈りの声を退くる勿れ、仁慈なるに依りて、速に我等を助け給え、蓋我等切に爾に呼ぶ、生神女や、爾を尊む者に常に代りて、急ぎ、祈り、切に願い給え。

輔　謹みて聴くべし。
司　衆人に平安。
誦　爾の神にも。
輔　睿智。

ポロキメン

誦　主や、我に行くべき途を示し給え、我が霊を爾に擧ぐればなり。
詠　主や、我に行くべき途を示し給え、我が霊を爾に擧ぐればなり。
誦　主や、我を我が敵より救い給え、我爾に趨り附く。
詠　主や、我に行くべき途を示し給え、我が霊を爾に擧ぐればなり。
誦　主や、我に行くべき途を示し給え、
詠　我が霊を爾に擧ぐればなり。

輔　睿智。
誦　聖使徒行実の読み。
輔　慎みて聽くべし。

書札（使徒行実　八・二六ー三九）

「彼の日、主の使フィリップに告げて曰えり、起ちて南に向いて、イエルサリムよりガザに下る路に適け、其路は野なり。彼起ちて往けり、視よ、エフィオピヤの人、エフィオピヤの女王カンダキヤの寺人にして大臣、其悉くの財寶を司る者は礼拝の為にイエルサリムに来りて、返り、其車に乗りて、預言者イサイヤを讀めり。神フィリップに謂えり、前みて、此の車に就け。フィリップ趨り就きて、彼が預言者イサイヤを讀むを聽きて曰えり、爾讀む所を曉るか。彼曰えり、若し我を導く者なくば、我焉ぞ曉るを得ん、乃フィリップに升りて共に坐せんことを請えり。其讀める聖書の文は左の如し、彼は羊の如く屠られん為に牽かれたり、羔が其毛を剪る者の前に在りて聲なきが如く、彼は此くの若く其口を啓かず。其卑賤に居る時、彼に於ける裁判は行われたり。然れども其来歴は孰か能

く之を解かん、蓋彼の生命は地より取らると。寺人フィリップに謂えり、請い問う、預言者の此を言うは、誰を指す、己を指すか、抑他人を指すか、フィリップ其口を啓き、此の書より始めて、彼にイイススを福音せり。路を行く時、彼等は水の有る處に来れり、寺人曰えり、視よ、水あり、我が洗を受くるに何の礙あるか。フィリップ彼に謂えり、爾若し全き心を以て信ぜば、可なり。彼答えて曰えり、我イイスス・ハリストスが神の子たるを信ず。乃命じて、車を止めしめ、フィリップと寺人と共に水に下り、フィリップは彼に洗を授けたり。彼等が水より上がりし時、聖神は寺人に降り、主の使フィリップを挙げて去り、寺人復之を見ざりき、乃喜びて其路を行けり。」

詠　アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。
輔　睿智、粛みて立て、聖福音経を聽くべし。
司　衆人に平安。
詠　爾の神にも。
司　イオアン伝の聖福音経の読み。
詠　主や、光栄は爾に帰し、光栄は爾に帰す。

輔　謹みて聴くべし。

福　音　（イオアン伝　一四・一―一二）

「主は其門徒に謂えり、爾等の心擾るる母れ、神を信じ、亦我を信ぜよ。我が父の家に第宅多し。然らずば、我爾等に言いしならん、我往きて、爾等の為に所を備えん。往きて、爾等の為に所を備えば、復来りて、爾等を接けて、我に就かしめん、我が居る所に爾等も居らん為なり。我が何処に往くを爾等知り、其道をも知る。フォマ彼に謂う、主よ、我等は爾の何処に往くを知らず、焉ぞ其道を知るを得ん。イイスス之に謂う、我は道なり、真実なり、生命なり、人若し我に由らずば、父に来るなし。爾等若し我を識らば、我が父をも識らん。今より爾等彼を識り、且彼を見たり。フィリップ彼に謂う、主よ、我等に父を示せ、然らば我等に足る。イイスス之に謂う、フィリップよ、我斯く久しく爾等と偕にするに、爾未だ我を識らざるか。我を見し者は、父を見しなり、如何ぞ爾等我に父を示せと云う。我の父に居り、父の我に居ることを爾等信ぜざるか。我が爾等に言う所の言は、己に由りて言うに非ず、我に居る父は、彼事を行うなり。爾等、

我が父に居り、父も我に居ると云うを、我に信ぜよ。」

詠　主や、光栄は爾に帰し、光栄は爾に帰す。

重　聯　祷

輔　神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

詠　主憐めよ。（三次）　（以下毎次同様）

輔　又我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。

輔　又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

輔　人の歩行を直くする主や、慈憐を以て爾の僕（婢）〔某〕を顧み、彼（等）に凡その自由と自由ならざる罪を赦して、彼（等）が定めたる善き企に降福し、及び出入と旅行とを無事ならしめ給え、努めて爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

輔　イオシフを其兄弟の悪謀より善く免れしめて、之をエギペトに向わしめ、爾が仁慈の降福を以て、萬事に於いて安全ならしめし主や、此の旅行せんと欲する爾の

輔　僕（婢）にも福を降し、彼（等）の途を無事にして安全ならしめ給え、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

輔　イサアクとトワィヤに同行者として神使を遣わし、之を以て彼等の旅と帰りとを無事にして安全ならしめし至善の主や、今も我等を以て爾に祈る爾の僕（婢）に安和の神使を遣わし、彼（等）を凡の善行に導かしめて、彼等を見ゆると見えざる敵及び凡の禍より免れしめ、壮健、無事、安全にして、爾の光栄の為に帰らしめ給え、熱心にして爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

輔　ルカ及びクレオパにエムマウスまで同行し、其奇妙なる爾を覚ゆるに依りて、喜びてイエルサリムに帰らしめし主や、今も我等を以て努めて爾に祈る、此の爾の僕（婢）に爾の恩寵と神妙の降福とを以て同行し、彼等に爾の至聖なる光栄の為に凡の善行に導き、彼等を壮健、安全に守り、善き時に及びて帰らしめ給え、爾の最と宏恩なる恩主に祈る、速に聆き納れ、仁慈を以て憐めよ。

司　神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を愛する神なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠　アミン。

輔　謹んで、爾等の膝と首を屈めて、主に祈らん。

詠　主憐めよ。（三次）

※（皆膝を屈む、司祭は彼等に向いて王門の中央に立ち、高声を以て左の祝文を誦す。）

司　主イイスス・ハリストス我等の神、真実にして生命なる途、爾の義父イオシフと爾の至浄なる母童貞女と偕に甘んじてエギペトに旅行し、ルカとクレオパとにエムマウスまで同行せし至聖なる主宰や、我等謙卑の心を以て爾に祈る、今も爾の恩寵を以て、此の爾の僕（婢）〔某〕に同行し給え、爾の僕トワィヤに於けるが如く、彼等に守護者及び教導師なる神使を遣わして、彼（等）を守り、凡の見ゆると見えざる諸敵の悪謀より脱れしめ、爾の誡を行うに導き、、平安、無難、壮健にして、安全に帰らしめ給え、且彼（等）に凡の善き企を爾の喜と光栄との為に善く成就することを得せしめ給え、

蓋我等を憐み救う事は爾に帰す、我等光栄を爾と爾の無原の父と至聖至仁にして生命を施す爾の神とに献ず、今も何時も世世に。

詠　アミン。

※（司祭、十字架に接吻せしめ、彼（等）に聖水を灌ぎ、祝福して曰く。）

司　願わくは主はシオンより爾（等）に降福し、爾（等）は在世の諸日イエルサリムの福（さいわい）を見ん、願くは主は其聖なる名の光栄の為に、爾（等）の途（みち）を平安に導かん。

詠　アミン。

輔　睿智。

司　至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠　ヘルヴィムより尊くセラフィムに並びなく栄え、貞操（みさお）を破らずして神言（かみことば）を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

司　ハリストス神我等の恃（たのみ）や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

詠　光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。福を降せ。

司　ハリストス我等の真の神は、その至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は

善にして人を愛する主なればなり。

詠　アミン。

幾歳も

輔　主や、今此処（ここ）に立ちて祈る神の僕（婢）〔某〕に、萬福（ばんぷく）にして平安なる度生、壮健と救贖、及び萬事（ばんじ）に於ける善（よ）き進歩を與（あた）えて、彼（等）を幾歳（いくとせ）にも護り給え。

詠　幾歳も。（三次）